

留学報告書 ～10 か月間の出会いと変化～

天津外国語大学
国際文化学部生（長期）

私は、中国の天津外国語大学に長期留学をしました。長期留学をする事は、中学生の頃からの夢でした。大学に入学するまでは、英語圏に留学したいと思っており、まさか中国に留学するなど思ってもいませんでした。大学に合格し、第二言語として日本語と似ており簡単そうという理由で、中国語を選択しました。大学では、英語を中心に勉強する予定でした。しかし、中国語を学び始めてすぐに英語とは違う楽しさを感じ、アルバイト先にも中国人観光客の方がよく来る事もあり、中国語をもっと学びたいと思いました。この頃から、英語圏と中国語圏への留学を考え始め、名古屋学院大学の協定校や留学制度等を調べました。その時、見つけたのが天津外国語大学でした。校風や留学生の様子、寮の環境、天津のヨーロッパ風の街並みに魅力を感じました。留学に行くなら公費で行こうと考えていたので、HSKを受検し、校内の中国語スピーチコンテストに参加しました。成績もなるべく高い評価がもらえるよう努力しました。中国への長期留学を決意してから、英語圏への留学も諦め切れず、1年生の冬休みを使いフィリピンの短期留学に参加しました。その後、5月中旬頃に公費長期留学の内定をもらい、中国語を中心に勉強するようになりました。9月の出発までの4か月間は準備などに追われ、すぐに出発の日を迎えました。出発当日は、中国語に自信はなかったが、楽しみな気持ちが上回りあまり不安のないまま出発しました。

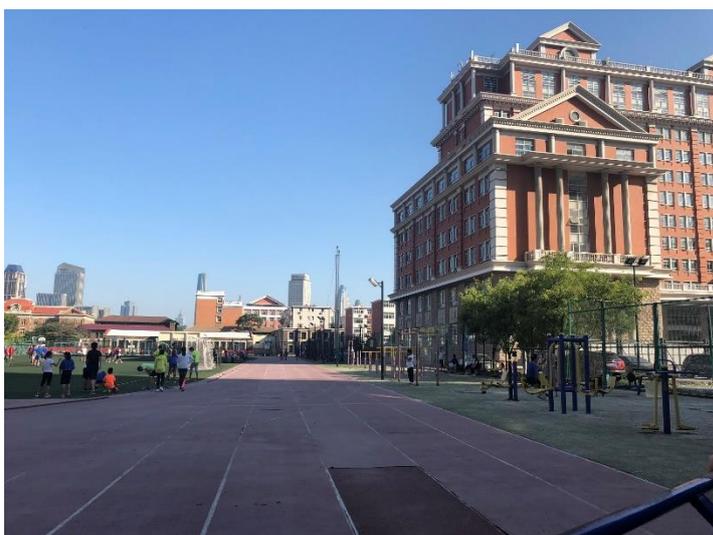
留学中の約10か月間は、環境と自分の変化、たくさんの人との出会いがありました。留学当初は、挨拶と簡単な単語のみしか話す事が出来ず、全くと言っていいほど聞き取れませんでした。特に現地の人と話すとスピードなど、1度聞いただけでは理解する事ができませんでした。携帯のSIMカードや銀行口座を作るのには、日本人会の会長さんや仲良くなった友達に手伝ってもらい、やっと作る事が出来ました。中国に着いてから3日ほどが経ち、クラス分けテストがあり授業が始まりました。私は、HSK3級レベルのクラスで授業を受ける事にしました。実際に授業を受けてみて、日本で受けてきた中国語の授業とは全く異なり、先生が話している内容は半分も理解する事が出来ず、クラスに相談出来る日本人の友達もいませんでした。今まで全く焦りはなかったのですが、自分の出来なさに焦りを感じ、一番下のクラスに移動しようとも考えました。しかし、「3か月間集中して授業を聞けば、大体理解出来るようになるよ」と留学先で仲良くなった先輩にアドバイスをもらいクラスを変えない事に決めました。それからの3か月間、毎日授業を必死に聞き、予習と復習をしました。すると3か月後、先生の話している事が大体理解出来るようになりました。クラスにも友達ができ、毎回韓国人の友達と授業を受けました。この頃からは、授業がとても楽しくなりました。また、授業は午前中に終わるので平日の午後や土日、祝日は友達と動物園や水族館、ショッピングモール、北京などに出かけました。普段の食事は主に学校内の食堂で食べていましたが、時間がある日にはインターネットで評価の高いお店を調べ、食べに行くようになりました。

冬休みに入ってから、重慶、上海、西安へ旅行に行きました。同じ中国でも地域によって、言葉のイントネーションや食べ物の違いがある事を知る事が出来ました。上海と西安は旧正月の時期に行ったので、イルミネーションや飾りなどがとても華やかで、観光地には多くの中国人観光客がいました。しかし、学校に戻ると留学生も本科生も帰省している為、校内は静まり返っていました。冬休みの約2か月間は、とても寂しかったです。冬休みに入ってから、ひとりで行動する事がほとんどだったので、ひとりで行動する事に全く抵抗がなくなりました。

春学期が始まってからは、前学期とは全く違う環境へと変化しました。ルームメイトがタイ人になり、ルームメイトを通じて様々な国の人と友達になる事が出来ました。その友

達と放課後にバドミントンやバスケットボール、野球、卓球などをよくやっていました。春学期は前学期と比べて、中国語を使う機会が明らかに増えました。一度も日本語を話さない日もありました。春学期のクラスは、前学期より 2 つ上のクラスに決め、毎回インドネシア人の友達と授業を受けていました。問題が解けたら、答え合わせをし、なぜこの答えになったのかなど 2 人で話し合う事もありました。この頃は、中国語を聞き取る事に日々成長を感じていましたが、話をする事にはまだ抵抗がありました。前学期より 2 つクラスが上がり授業中に話す機会は増えましたが、あまり成長していませんでした。話したい事があっても言葉にできない事が、ずっと悩みだったので、毎日一緒にいてくれたタイ人の友達に相談しました。友達は、「時間がかかっても、単語だけでもいいから意識的に話す事が大事だよ」とアドバイスをくれてから、話す事を意識するようになりました。また友達は、二人で話す時はすぐに辞書を使うのではなく、分からない言葉があったら、私に分かるまで説明するからと言ってくれました。この方法を続けて、5月にやっと「最近話せるようになってきたね」と言ってもらえました。この言葉を言ってもらえて、とても嬉しかったです。期末テストが終わり、帰国まで 1 週間程あったのでタイ人の友達 1 人、中国人の友達 2 人と一緒に青島へ旅行に行きました。青島では、友達の家族に食事に誘ってもらいました。とても貴重な経験になりました。

この留学を通して、日本にいただけでは味わえないような経験が出来ました。留学先には、世界各国からの留学生や日本全国からの日本人留学生、海外に興味を持ち学んでいる中国人の生徒がいます。この環境は、外国語大学ならではの環境だと思います。この環境のおかげで、たくさんの人と出会う事が出来、自分への刺激となりました。留学が始まった当初は、中国語を話す事が怖く恥ずかしいと感じた事もありました。しかし、こんな感情があっては留学に来た意味がないと思い、自ら挨拶をして話しかける事、なるべく明るい顔でいる事を意識して生活しました。そうしているうちに、同じクラス以外の友達や寮の警備員さん、食堂のおばちゃんなどと仲良くなる事が出来ました。仲良くなった友達とは、帰国後も連絡を取り合っています。消極的だった性格も、少し積極的な性格に変わる事が出来た気がします。留学中は楽しい事だけでなく、悩む事もありました。しかし、留学を終えて思うのは、本当に長期留学で天津外国語大学に行く事が出来てよかったという事です。私が留学に行く事が出来たのは、留学に行かせてくれて、ずっと応援してくれた両親と中国語に興味を持たせてくれた先生の存在があったからだと思います。なので、この経験を無駄にしないよう、これからの生活、就職活動などに役立てていきたいです。



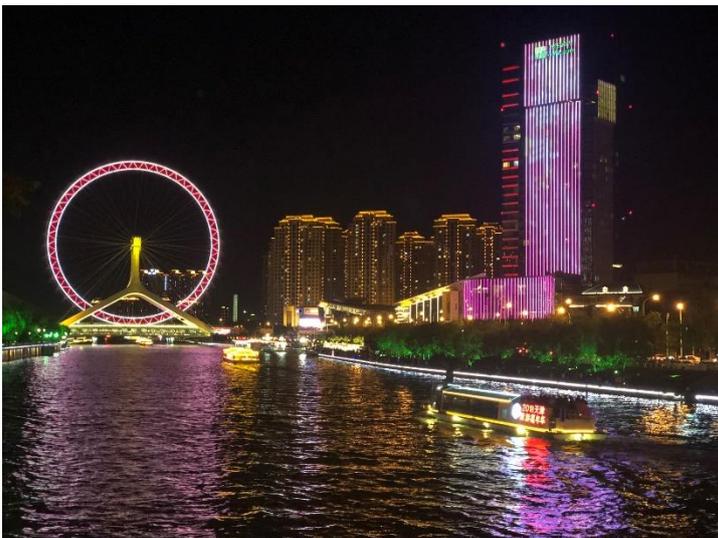
《天津外国語大学校舎》



《天津市内文化觀光 古文化街》



《美食街》



《天津之眼》